



GIGA スクール通信 vol.8



令和3年度から、GIGAスクールによる一人一台端末を本格的に活用した教育が始まった垂水市。ここでは、市民の皆様へ、GIGAスクールはどういったものなのか解説するとともに、各校の取組を紹介することで、GIGAスクール構想を基にした教育に親しみを持っていただければと思います。

「navi ma」の仕組みやよさが伝わりにくいので、10月から「体験コーナー」を設置しました。市民館1階と2階にあります。コーナー設置後、市民講座や様々な催しで市民館に訪れた方々が、興味深く体験しておられます。未就学のお子さんも、体験しながら「おもしろい」と話していました。市民館に訪れた際には、ぜひ、体験されてください。



▲お子さんも興味津々



▲体験コーナーの様子

GIGAスクール構想において垂水市が整備したタブレット端末には、いくつかのデジタル教材を導入しています。その一つがAIDドリル「navi ma」です。「navi ma」は、5教科（国語、社会、算数・数学、理科、英語）の学習ができる教材です。教科ごとにその特徴は異なるのですが、算数・数学では、個々の学習スタイル・理解度に合わせて学びを深めていきます。具体的には、問題に回答すると、正答した子供と、誤答した子供によって、次に出題される問題が変わっていきます。AIが判断して、個々に適した問題を出題してくれるのです。また、解説文だけで分かりにくい場合は、「おたすけ動画」で確認することもできます。

AIDドリル「navi ma」(ナビマ)って？

協和小学校「GIGA でつなぐ学びの協力和合」

「協和小らしいGIGAスクール」とは、タブレット端末を最大限に活用しながら、児童・教師が「協働的な学び」を全教育活動で実践する「GIGA でつなぐ学びの協力和合」です。

授業では、国語科を中心に社会科や理科などでロイロノートのスライド作成（共同作業）をし、教師と児童、児童同士の主体的・対話的で深い学びを実践しています。また、学習の振り返りをスクールライフノートへ入力し、何を学んだかを確認し合い、教師が児童一人一人にコメントすることで、学習への意欲付けとなっています。さらに、タブレット端末を家庭へ持ち帰り、自らナビマを使って復習をしたり、デジタル教科書を見て予習をしたりして、個別最適な学びにも役立っています。高学年を中心に、夏休みの課題をタブレット端末で取り組み、その模様がテレビで報道されました。タブレット端末の活用は、教科の学習だけでなく、委員会活動でのアンケート実施や校外の自主学習などに役立っています。様々な場面で活用することで、1・2年生のキーボード入力も大変上手に速くできるようになりました。

6月には、松ヶ崎小学校と5年生理科のオンライン合同授業を実施しました。「自分の考えが多くの友達に伝えられて嬉しかった」等の感想があり、「学びに向かう力、人間性等」も少しずつ高められているようです。今後も、継続的に他校とのオンライン合同授業が実施できるように計画を進めていき、「GIGA でつなぐ学びの協力和合」を更に広げていきたいと思っています。



▲自分の目で観察しタブレット端末で記録している児童の様子（3年生理科）



公益財団法人慈愛会と垂水市の包括連携協定のもと、今村総合病院の医師の皆様にご協力いただき、市民の皆様の健康増進及び子育て支援啓発を目的に、4カ月に1回、皆様にお伝えしたい情報をコラム掲載いたします。

家庭でできるケガ・事故の予防

新 新型コロナウイルス感染症流行に伴い、休園・休校や自宅療養などの影響で子どもたちが家庭で過ごす時間が長くなっているのではないのでしょうか。家庭内でのケガや事故の予防のためには、家庭内に潜む危険を事前に把握して対策を行うことが大切です。

①「溺れる事故」について

1歳前後の溺水の原因場所は浴槽が最多です。わずか10cmの深さの水でも溺れる可能性があり、ほんの少しの間でも目を離すことは危険です。

浴室に関しては「1人にしない・1人で扉を開けられない工夫・浴槽の水を抜く」を守りましょう。また、保護者が髪を洗うときには子どもは浴槽から出しましょう。

②「やけど」について

炊飯器の蒸気、電気ケトルの転倒、グリル付きコンロ、カップに入った飲み物、加湿器やストーブなどの暖房器具など様々な原因があります。いずれも大人にとって身近なものですが、子どもたちにとってはやけどの危険が潜んでいます。

やけどの予防のために台所などのベビーゲート設置、チャイルドロック機能のある製品の使用をお勧めします。また、電気コードに引っ掛かることもあるので、本体とコードが着脱式の製品を選ぶ、電気コードをまとめるなどの配慮を行きましょう。

やけどをしたときは、初期の対応が大切です。すぐに10分以上冷やしましょう。服の上から熱湯などがかった場合は、脱がさず服の上から冷やしてください。やけどの範囲が片足、片腕以上の広範囲、顔面などの場合は救急車を呼ぶか至急病院を受診してください。

③「転倒・転落」について

家庭内の危険な場所として、ベッド・ソファ・ベランダ・窓などが挙げられます。

子どもたちは寝ている間も動き回るので、ベッドから転落する危険があります。ベッドは安全な柵のあるものを使用し、ソファで寝かせないようにしましょう。

階段は転落防止の柵を付け、子どもだけでベランダに出ないように注意し、植木鉢など踏み台になるものを置かないようにしましょう。同様に、窓の近くにもベッドやソファなど踏み台になるものは置かないようにしましょう。

もし頭部打撲をしてしまった場合、こぶができた程度なら安静にして冷たいタオルなどで冷やします。意識がおかしい、顔色が悪く元気がない、繰り返し嘔吐するなどの場合は至急病院を受診しましょう。

ご家庭での対策はいかがでしょうか。ご自身の家庭内に危険は潜んでいないか、できる対策がないか確認し、子どもたちを身近な危険から守りましょう。

今村総合病院小児科医
みなこ
徳永 美菜子

鹿児島大学出身。小児内分泌を専門としています。子どもたちの笑顔や成長を見守ることができているのが小児科医の魅力だと感じています。診療を通じて、保護者の方の不安や悩み事の軽減や子どもたちの成長をサポートしていきたいです。



問 保健課健康増進・元気プロジェクト係 ☎ 内線 138